

株式会社中電シーティーアイ 様

重要データを扱う高信頼性とトータルコスト削減を両立
中部地域1,000万世帯への電力の安定供給を支える

国名	日本
業種	ICTサービス業
ハードウェア	FUJITSU Storage ETERNUS DX440 S2 ディスクアレイ FUJITSU Storage ETERNUS SN200 ファイバチャネルスイッチ

課題

- ストレージの見直しを行い、コスト削減を図りたい
- お客様向けの重要データを守りたい
- コストパフォーマンスに優れたDRシステムを構築したい

効果

- SANストレージに「ETERNUS DX440 S2」を採用し、高性能、高信頼性に加え、優れたコストパフォーマンスを実現。トータルコスト約30%削減に貢献
- オンライン中の高速バックアップを実現するアドバンスド・コピー機能により1日1世代を複製し、重要データの保全性を向上
- リモート・アドバンスド・コピー機能によりデータセンター間での遠隔地バックアップを実現しコストを抑えながら災害時の業務継続性を向上

「ETERNUS DX440 S2採用にあたり、高度な処理能力と高信頼性に加え、電力システム改革に向けてデータ量の増大が見込まれる中、高い拡張性を備え、なおかつ優れたコストパフォーマンスがポイントとなりました」

株式会社中電シーティーアイ
プラットフォームソリューション事業部 基盤システム部
汎用インフラグループ ストレージチーム

中部電力は、電力の安定供給に全力で取り組む一方で全社を挙げて徹底したコストダウンを図っています。その一環としてストレージの見直しを実施。中部電力をICTでサポートする中電シーティーアイは、高性能、高信頼性のSANストレージにコストパフォーマンスに優れた「ETERNUS DX440 S2」を採用。さまざまな取り組みによりトータルコスト約30%削減を図るとともに業務継続性、DR対策も実現しています。

導入の背景

お客様のご負担をできる限り少なくし、安定した電気をお届けするために



中部電力株式会社
情報システム部
共通基盤グループ 副長
津本 将秀 氏

愛知、岐阜など中部5県の約1,000万世帯に電力を供給する中部電力。電力設備の管理から電力業務のサポート、環境解析まで、電力に関わるシステムを一手に担っているのが中電シーティーアイ（以下、中電CTI）です。中部電力グループ唯一のICT企業として、同社は地域社会への安心と豊かさの「提供」、お客様の信頼を得られる品質の「追求」、お客様の立場に立ち、自ら考え、自ら「行動」の経営理念のもと電力の安定供給と経営の効率化に貢献しています。

電気事業環境が厳しさを増す中、中部電力は、電力の安定供給に全力で取り組む一方で、設備・運用・調達、業務運営などあらゆる面で経営の効率化を実施し、全社を挙げてコストダウンの徹底を図っています。中部電力の情報システム部は、コストダウンを含めて情報システム部のあるべき姿を実現するためにミッションを策定しました。

「ミッションの策定において、安定した電気をお届けするとともに、お客様のご負担をできる限り少なくし、顧客満足度を最大化するように定義しました。また、グループ全体でのICTの最適化、超上流工程からの関わりなども明記しています。策定したミッションを実現するための目標として“業界No.1の低コスト、高生産性”を掲げていま

す。情報システム部では、ミッション策定以前からコストダウンを重点テーマと位置付け、ICTコスト半減という目標に向けた施策を実施しています。その一環として2009年にストレージの設備取替計画の検討を開始しました」と、中部電力 情報システム部 共通基盤グループ 副長 津本将秀氏は振り返ります。

導入のポイント

高信頼性と優れたコストパフォーマンスで「ETERNUS DX440 S2」を選択

ストレージの設備取替計画は、コスト削減とデータ保全の両立を図るべく、製品の最適化と、リブレースサイクルの見直しの大きく2つポイントがありました。中部電力の方針を受け、中電CTIはサービスレベルに応じたストレージの使い分けの検討を行い、営業、配電、工事、資材、経理などが動作するホストおよびサーバより共用利用してきたSANストレージについて、要件を整理し抜本的な見直しを実施しました。

「お客様向けの大切なデータを大量に扱う業務に高性能・高信頼性のSANストレージを適用し、他はNASストレージを活用することにより、全体でコストの最適化を図ることにしました」と、中電CTI プラットフォームソリューション事業部 基盤シス



株式会社中電シーティーアイ
プラットフォーム
ソリューション事業部
基盤システム部 汎用インフラ
グループ ストレージチーム
チームリーダー
平木 正人 氏



株式会社中電シーティーアイ
プラットフォーム
ソリューション事業部
基盤システム部 汎用インフラ
グループストレージチーム
足立一夫氏

テム部 汎用インフラグループ ストレージ
チーム チームリーダー 平木正人氏は話
します。

またリプレースサイクルの見直しでは、
従来のように必要なリソースを確保する
ために、その都度、導入するのではなく、
2年ごとのサイクルで計画的に導入するこ
とでコスト削減を図っていきます。2年ご
とのサイクルであれば、直近で利用するシ
ステム要件に合ったサイジングを行うこと
ができ、設備の陳腐化も避けることが可能
です。

重要データを扱うSANストレージの選定
では、高信頼性はもとより総合的な観点
から複数社の比較評価を実施。その結果、

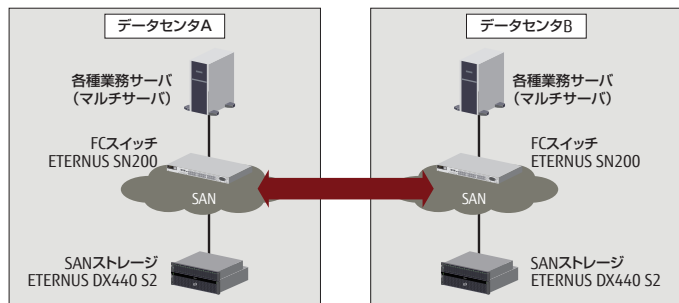
選定されたのが「ETERNUS DX440 S2」でした。選定の理由について
「高い処理能力と高信頼性に加え、電力システム改革に向けてデータ量
の増大が見込まれる中、高い拡張性を備え、なおかつ優れたコストパ
フォーマンスが採用のポイントとなりました。また、これまで富士通製
のストレージを使ってきており、性能、信頼性、サポートに対する信
頼感がありました。業務システムに影響を与えないかたちで、運用管理
機能を継続できる点も、リスク回避やコスト面で大きなメリットが
ありました」と、中電CTI プラットフォームソリューション事業部 基盤
システム部 汎用インフラグループ ストレージチーム 足立一夫氏は話し
ます。

システムの概要

データ圧縮機能など中電CTIの開発・技術力がコスト削減に貢献

2010年に「ETERNUS DX440 S2」の採用を決定、2011年に運用を開
始しました。新システムは、コストパフォーマンスはもとよりデータ
の保全性や業務の継続性を実現しています。「ETERNUS DX440 S2に格
納される重要なデータは、オンライン中の高速バックアップを実現す
るアドバンスド・コピー機能により1日1世代を複製しています。また
リモート・アドバンスド・コピー機能によるデータセンター間での遠
隔地バックアップにより、コストパフォーマンスに優れたDR対策を実
現しています」（足立氏）。

電力の安定供給を支えるコスト効率の高いDRシステム リモート・アドバンスド・コピー機能による遠隔地バックアップ



コスト削減の観点では、中電CTIの開発・技術力を活かした取り組み
も強化しています。従来、業務サーバ側にバックアップ用エージェン
トミドルウェアを導入していましたが、エージェント不要の補完機能
を開発し業務サーバ側のミドルウェアの導入コストを削減しました。
また、ある部門が大量のバックアップデータを必要とすることが判明
したため、データ容量を半減するデータ圧縮機能を開発し、バックア
ップ機能として提供することでディスク容量の削減を図っています。

導入の効果と今後の展望

製品の最適化、圧縮機能の開発などによりトータルコストで30%削減

2013年に、2年のリプレースサイクルの1回目が終了し、サイクルは
2回目に入りました。この2年間、新システムは安定稼働を続け、サイ
クルの2回目もSANストレージは「ETERNUS DX440 S2」を継続して利
用しています。

製品の最適化、計画的リプレース対策、圧縮機能の開発、Disk to
Diskバックアップ採用などにより、全体の当初計画から比較するとト
ータルコストで約30%削減を実現しています。

今後の展望について中部電力の津本氏は「コスト削減は設備計画の
重要なテーマであることはこれからも変わりません。また、ビッグデー
タの活用などデータ量が増大していく中でストレージのコストの最適
化はますます重要になると考えています」と話します。

津本氏のお話を受けて中電CTIの平木氏は「中部電力のICTコスト削減
に貢献するために、今後も業務の特性に合った最適なモデルの採用と、
補完機能のシンプル化、構築コストの削減など当社の技術力を活かし
効率性を高める工夫を積極的に行っていききたいと思います。富士通に
は、システムの信頼性とコスト削減の両面に応える製品の提供と提案
をお願いいたします」と話します。

1951年創立以来、地域や社会を支え続ける中部電力。電力の安定供
給をICTの側面からサポートする中電CTIの取り組みを、富士通は先進技
術と総合力で支援していきます。

会社概要

株式会社中電シーティーアイ

本社所在地：〒461-0005 名古屋市中区東桜一丁目3番10号

代表者：代表取締役社長 田中 孝明

設立：2003（平成15）年10月1日

従業員数：1,016名（2013年7月現在）

事業内容：システム開発、システム保守、ネットワークシステム・インテグ
レーション、データセンター、科学技術（環境情報・技術開発・
解析）、システム運用管理、データエントリ出力サービスなど

URL：http://www.cti.co.jp/



本コンテンツに記載されている会社名・製品名等は、各社の商標または登録商標です。
本コンテンツに記載されている会社名・製品名等は、必ずしも商標表示していません。
本コンテンツに記載の肩書きは、取材当時のものです。

お問い合わせ先

富士通コンタクトライン **0120-933-200**

受付時間 9:00～17:30（土・日・祝日・年末年始を除く）

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター